

BMW Motorsport
Customer Racing Team



GSR&Studie
with Team UKYO

2013 AUTOBACS SUPER GT
ROUND1 OKAYAMA 300km RACE

DRIVER 谷口信輝 片岡龍也

王者奪還に向け 2 位 FINISH でシーズンをスタート



2013年4月6日7日の2日間、2013 AUTOBACS SUPER GTシリーズ開幕戦『SUPER GT OKAYAMA 300km RACE』が岡山県の岡山国際サーキットで行われた。参戦3年目の今シーズン、昨年の2台体制から参戦車両を1台戻したチームは、2013年を王者奪還の年と位置付け、開幕戦に臨んだ。今シーズン、ゼッケン#4に戻ったマシンは、昨年の#0のドライバー谷口信輝と片岡龍也が引き続きドライブする。

Studie AG



4月6日(土)練習走行・予選

練習走行

2013 シーズン開幕の初日は曇り空のスタート。予報では、低気圧の影響で午後から台風並みの暴風と雨が予想されるとの事だが、午前のスケジュールには大きな影響を及ぼさず、練習走行は定刻どおり 9:00 にスタートした。このセッションの走行は、まず片岡選手が担当。

走行開始直後からコース上には雨が落ち始めるが、溝ありタイヤが必要なコンディションではない為、走行はドライタイヤでのマシンバランス確認作業からスタートした。



ドライブを担当する片岡選手によると、『マシンに問題は一切なし』。徐々に強まる雨脚で溝付きタイヤに履き替えた 4 号車は、その後も雨用タイヤの評価を続ける。時間の経過と共にコースコンディションが悪化し、赤旗中断が繰り返される中、このセッションで予定していたメニューを順調に消化する 4 号車は、赤旗中断のタイミングで終盤にドライバーを交代。4 号車に乗り込んだ谷口選手がマシンのセットアップの確認を開始するが、レインタイヤ装着でもハイドロプレーニングが起きるほどのコンディションに安全を優先し、マシンを戻してこのセッションを 300 クラスの 6 番手で終えた。



Studie AG



公式予選

予選方式から SUPER LAP が消えた今シーズンは、すべてのラウンドの予選が Q1 上位 13 台が Q2 に進出し、グリッドを決める 2 ノックアウトシステム。Q2 進出の場合には、A・B の両ドライバーのアタックが必須とされる。

Q1

公式予選一回目は雨の為、定刻より 10 分遅れてスタート。この 15 分間のセッションは谷口選手が担当する。

Q1 スタート。

各マシンがウェットのコースに向かう中、4 号車は 9 台目にコースイン。が、まだ一台のマシンもアタックに向かっていないアウトラップ中にコースオフしたマシンがあり、開始直後赤旗中断となる。セッション再開後の 4 号車は計測 4 周目に 1 分 48 秒 521 を計測。9 番手で Q2 への進出を決めた。



Q2

500 クラスの Q1 も赤旗中断がたびたび入り、300 クラスの Q2 は定刻から遅れて 15:45 スタート。片岡選手はセッション開始直後、4 台目でコースインした。4 号車は計測 1 周目が 6 番手、計測 2 周目は 7 番手タイムとタイムが思うように伸びない。続く計測 3 周目は 5 番手、4 周目は 4 番手とタイムを伸ばすが、ライバル勢も続々とタイムを更新し、6 周目にこのセッションのベスト 1 分 43 秒 223 を計測するが、ポジションを上げる事が出来ず、6 番手で予選を終えた。

BMW Motorsport
Customer Racing Team



GSR&Studie
with Team UKYO

4月7日(日) 決勝

天候: 晴れ/コース: ドライ



前日に雨をもたらした雨雲も徐々にその場所を移し、決勝日の天候は回復傾向。風こそ残ったものの、フリー走行が行われた午前中はサーキット上空を青空が包み込んだ。この午前のセッションではインターミディエイト(浅溝タイヤ)装着の序盤から、4号車のタイムは非常に好調。路面コンディションが上向き、各マシンがドライ用タイヤを装着した終盤もその好調さは他を寄せ付けず TOP を維持したままフリー走行を終えた。



12:55からのウォームアップ走行は定刻どおりスタート。4号車は前日の予選結果を受け、6番のスターティンググリッドに着いた。この開幕戦は片岡選手がスタートドライバーを務める。

Studie AG



決勝は定刻どおりにスタート。ローリングラップ中に500のマシンがコースオフして隊列が崩れた為、1周多くコースへ残ったセーフティカーがPITロードへ向かい、開幕戦の火蓋は切って落とされた。6番グリッドからスタートした4号車はポジションを一つ落として1周目のコントロールラインを7番手で通過。その後4周目にポジションを6番手に戻し、続く5周目のコントロールライン通過時点には5番手に浮上する。300クラスの上位陣に動きが出てきたのは10周目。それまでTOPを走

っていた3号車を11号車がパスし、隊列のオーダーは変わるが4号車はポジションを変える事無く、レースの序盤が進行した。4号車のポジションが動いたのは18周目。ほぼギャップなく前を走る61号車を1コーナーでパスし、そのポジションを4番手へと上げた。レースはそこからしばらく膠着状態に入る。ふたたびレースが動き始めたのは中盤に差し掛かった30周目。ペースが上がらないながらも2番手のポジションで後続を抑えていた3号車を87号車がかわすと、続く31周目には4号車もこれをパス。これによって4号車はポジションを3番手へと上げた。

3番手を走る片岡選手の4号車は、その後も堅調な走りを見せ、前に行く87号車とのギャップを徐々に詰め始める。迎えた36周目、PITのタイミングで87号車の前に出る作戦を選択したチームは、片岡選手にPITインを指示。4号車は万端の準備を整えた谷口選手とメカニックがマシンを待つPITへと向かう。

4号車 PIT イン。

チームメカニックの正確な作業でタイムをロスせずコースへ向かった4号車は、谷口選手のドライブで10番手のポジションでコースに復帰した。



Studie AG



PIT アウト直後の 38 周目、今度は 4 号車の前を走っていた 87 号車が PIT イン。4 号車はこの時点で 87 号車の前に入る事に成功する。その後も他チームがルーティンのピットタイミングを迎える中、4 号車は予定通り 45 週の通過時点で 2 番手へとそのポジションを上げた。

4 号車の前に行くマシンは 11 号車の SLS のみ。SLS がコースに復帰した直後 14 秒あったギャップは次の周に 5 秒まで詰まり、一時は表彰台の頂点が見えたかに思えたが、ライバル SLS のペースも速く、TOP の 11 号車と 4 号車のギャップは徐々に広がってしまう。



4 号車はその後数周に渡って周回遅れのマシンに前方をふさがれ、タイムをロスするが後方のマシンとのギャップも十分にあり、あわてずこれを処理。その後もペースを落とす事無く、そのままの 2 番手ポジションで開幕戦のレースを終えた。





■ 鈴木康昭 エントラント 代表

2位入賞は最高のスタートだと思います！
もちろん優勝できればよかったですけど(笑)。
今回ばかりはゲイナーさんに完敗です。
向こうも素晴らしいレースだったと思います。

もちろんわれわれの一番の目標は
チャンピオンを獲ることなので
そういう意味でも最高のスタートがきれて
ただただ感動でございます！
みなさん、応援ありがとうございました！

■ 大橋逸夫 総監督/0号車監督

まずはみなさん応援ありがとうございました。
もうちょっとアウトラップで詰められて
さらにブッシュをかければ逆転できるか
と思ったんですが、ゲイナーの平中選手が
とても冷静に最後まで走りきったので
ちょっと敵いませんでしたね。

しかし、2位入賞というレースとしては
今のわれわれにとって考える
最高の結果だと思います。
本当にありがとうございました！



BMW Motorsport
Customer Racing Team



GSR&Studie
with Team UKYO



■片山右京 スポーティングディレクター

ダンロップがココ(岡山)を得意としており
昨年も勝ってたし、今日もペースが速かった。
それを考えたら、2位というのは上出来でしょう！
1位じゃないのは悔しいけどね(笑)。

ドライバーの二人は安定していい仕事をしたし
ピットワークもよかったし、なるべくしてなった2位ですね。

最高の滑り出しだと思います！

Studie AG



■谷口信輝 選手

序盤でポルシェに抜かれて、こりゃ大変なレースになりそうだったと思ったら抜き返してくれて、われわれとしても良い感じの展開になりました。そのうえ、ピットで#87の前に出ることができて願ったり叶ったりになった。雨の影響も最後の最後までなかったし。いつも自己採点で100点を目指してレースをするんですが、今回は100点に近いレースができたんじゃないかなと思います。

今年は表彰台に上るのが困難かもしれないけど、開幕戦でまず15ポイント取れたのは非常に大きいですし、毎戦毎戦100点を取れるようなレースを重ねていって、必ずチャンピオンシップの一角に入って最終戦ではチャンピオンを獲りたいですね！

■片岡龍也 選手

朝からクルマの調子良かったので、チャンスがあれば上にいきたいと思ってましたけど、サーキットの特性もあるのか、いつもよりは最高速もほかのライバルと差がなくて、われわれにも十分勝負権がありましたね。ライバルたちを抜きながらレースを進めましたが、どうしても#87が抜けなかった。でもピットでなんとかなるかなと思ったんです。そうしたら、みんながいい仕事をしてくれて、見事に前に出ることができました。

そういう意味では、今回は自分たちができる仕事をそれぞれみんながやりきっての2位なので、シリーズを考えれば非常にいいリザルトだし、レースの内容も今シーズンの可能性を感じる展開だったと思います。非常にポジティブな気持ちでレースを終えることができました。応援ありがとうございました。

